



草加八潮地域連携呼吸器研究会（**SYRC-R**:シルク・アール）

事務局：草加内科呼吸ケアクリニック

〒340-0043 草加市草加1-4-5
TEL 048-999-5941
FAX 048-999-5986
（事務局が変わりました）

代表世話人・会計：高木 寛
（高木クリニック）

世話人：加藤 貴紀
（かとうファミリークリニック）
平田 大介
（草加八潮医師会学術担当理事・平田クリニック）
篠原 浩一
（八潮中央総合病院）

広報・編集：新 謙一
（草加内科呼吸ケアクリニック・前東京医科歯科大学臨床教授）

看護・介護部門世話人
花木 美穂子
（わーくわっく草加）
須嶋 義夫
（一正堂薬局第二支店）
神津 陽子
（訪問看護ステーションゆりの木）
高橋 克幸
（獨協医科大学越谷病院リハビリテーション部）
新 智美
（草加内科呼吸ケアクリニック）

監査：須嶋 義夫
（一正堂薬局第二支店）

会報著作・製作：新 謙一

シルク・アール：質の高い滑らかな地域連携に！

草加八潮地域連携呼吸器研究会
（英名：Soka-Yashio Regional Conference of Respiratory Disease）は頭文字をとりSYRC-Rと表記し、「シルク・アール」と発音します。絹（シルク）の様に質の高い滑らかな連携がある（アール）ことを目指しての語呂合わせのネーミングです。名前負けしないように継続発展させていきたいと考えています。皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

草加八潮地域連携呼吸器研究会（SYRC-R）

お互いの顔が見える地域連携に

ハイライト：

超高齢社会へ突き進む日本で要介護者に対するケアへの関心が高まっていますが、医療介護の現場は需要と供給のバランスが地域によって非常に異なります。しかし生き生きとお家で生活することは合併症の肺炎を減らし身体活動性を維持する上で重要です。

全国を見渡すと各地で素晴らしい取り組みが始まっています。今回は高齢者介護の現場に焦点を当て、遠く宮崎から市原美穂氏をお招きし、皆さんと共に高齢者ケアを考えてみようと思います。

目次：

草加市「認知症検診事業」が新たに今年から開始 **p1**

講演：かあさんの家はこんなところ
ホームホスピス宮崎 理事長 市原 美穂氏 **p2**

ユマニチュード：フランス発の介護技術 **p3**

パネルディスカッション
「自宅以外で安心して暮らし、医療介護も受けられる地域とは」 **p3**

一般演題：高齢COPD患者の日常活動性と治療状況 **p3**

次回第16回SYRC-Rは11月26日(水)午後7：00～9：00
前橋赤十字の堀江健夫先生「吸入療法・指導について」 **p4**

草加市「認知症検診事業」が新たに今年から開始されました（受診期間：6/16～12/19）

受診対象は

1. 草加市に住所がある60歳の方（昭和29年4月2日～昭和30年4月1日生まれ）
2. 草加市に住所がある65歳以上の奇数年齢の方です。

検診費用は無料です。受診の際の持ち物は、健康保険証とお薬手帳です。

受診期間は、今年の6/16～12/19です。

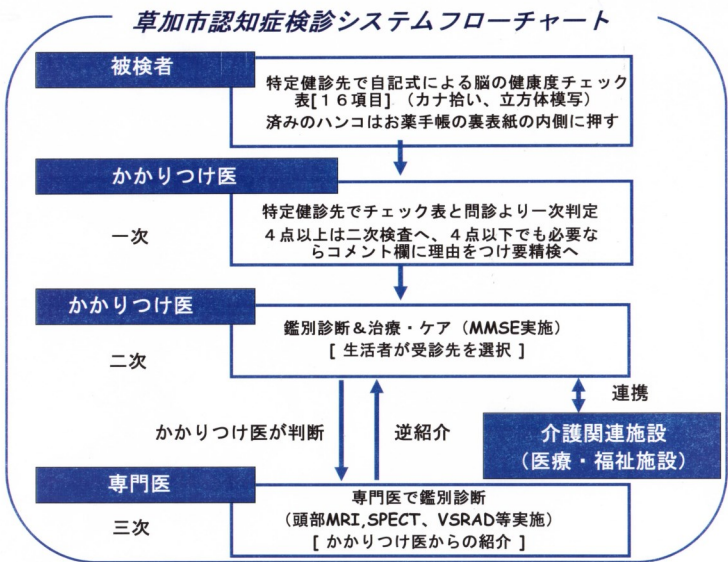
実施医療機関は別添の医療機関です（八潮市内の医療機関も受診できますが、八潮市民は本検診の対象ではありません）。受診されますと、右のチェック表を受診者ご本人に記入いただくだけの簡単な検診ですので、身の回り的高齢者にお声掛けを宜しくお願いします。フローチャートに従って対応しますので、いきなり専門施設にご案内しないよう介護事業者は留意してください。

脳健康度チェック表	
氏名	受診日
フリガナ	平成 年 月 日
姓 名	年 月 日 () 歳
住所	電話 () - ()
この表の裏面に「はい」「いいえ」で答えてください。回答はまるかじりに書きつけてください。	
1 最近、家族からもの忘れがあると言われたことがある。	はい いいえ
2 物の名前や人の名前が思い出せないことがある。	
3 毎日1回以上しまい忘れがあり、まがすことがあります。	
4 今自分が平成何年何月何日生なのか、分からない時がある。	
5 ここがどこなのか分からなくなり、迷い込んでしまうことがある。または、道迷、迷路やカードを失くしたと勘い、あとで発見の時にあった経験がある。	
6 いつも作っていた料理の作り方が分からなくなったことがある。	
7 計算の間違いが多い。または、お金の勘定をよく間違える。	
8 物に気づくまでの時間がかかり、気づかないことがある。	
9 最近物忘れが多くなり、気づきづらくなったことがある。	
10 元気がでない。または、仕事をやる気がしない。	
11 寝られないことが多い。	
12 料理の準備や片付けが10分以上かからない。	
13 物の整理や片付けが10分以上かからない。	
14 いつも使っている物の名前が分からず、あれ、それと覚えていないことがある。	
15 おなげきを感じたり、風呂の湯を冷たいと感じたことがある。	
下の図解と同じものを書いてください。（※「はい」「いいえ」欄は両方両方記入してください）	
16 	
合計	

注 定
1. 健康です。もの忘れもなく脳は元気です。
2. 少しもの忘れがありそうです。さらに詳しく調べましょう。
(コメント欄)

医療機関名
医師名
印

【1】医療機関用



予告：11月26日(水)の第16回SYRC-Rは、前橋赤十字病院の堀江健夫先生と吸入療法を考えます

日本人は「薬は飲むもの」と考えて高齢者は沢山の薬を服用しています。しかし最近貼る薬や吸う薬が増えてきて。特に高齢者には吸う薬が難しく、外来で同じ日数を処方しても「吸入薬は余っているからいらない」と言われることが日常茶飯です。COPDや喘息の基本薬は吸入療法です。そして冬に猛威をふるうインフルエンザの外来治療薬も吸入薬が2種類あります。もはや薬剤師だけの課題ではなく、高齢者をケアする全てのスタッフは吸入指導を実践しなければならない時代になりました。皆様のご参加をお待ちしています。



編集後記：医療介護の世界は、多職種が縦系や横系になり紡ぎ織りなす連携のカーペットです。その上に居てもらう生活者としての患者さんや家族を心地よくサポートすることが使命です。この領域に足を踏み入れて4半世紀経った今も色々な方に沢山の事を教わり、沢山の元気を分けて頂いています。今回は市原さんの元気を地域の皆さんと一緒に掘分け頂く機会に恵まれ嬉しい限りです。コップに半分水がある時に、「半分しか水がない」のではなく、「まだ半分水がある」という気持ちでそれぞれのルーチンワークに生かしていただければ幸いです（謙）。

講演：宮崎の“かあさんの家”はこんなところ
～お年寄りを笑顔にするヘルパーさん達の実践～
NPO法人 ホームホスピス宮崎 理事長
かあさんの家 市原 美穂 氏



地方都市に残された高齢者に自宅の様な環境を提供

核家族化の果て老老介護を始めとする限られた家族による介護が常態化し、介護福祉士（ヘルパーさん）への期待は益々高まっています。2004 年に開設された「かあさんの家」は、主婦であった市原氏が認知症や不治の病があっても高齢者が地域で安心して暮らせる新しいスタイルのケアを実践し、現在 4 軒が稼働しています。そこには介入する多職種から信頼され活躍する介護福祉士の姿があり、メディアでもたびたび紹介されています。私達の重要なパートナーである介護福祉士を統括するお立場から、余命が限られた高齢者をケアする心と技を伝えて頂きたいと思います。



「ユマニチュード」
見つめて・触れて・語りかけて、そして、立たせて

やさしさの技術を体系化したフランス発の介護技法

日本人は優しい国民性であると我々は自負しています。しかし、超高齢化社会を迎える現状では、認知症や意思疎通が困難な患者さんへのケアに於いて、私達の国民性を発揮しにくい厳しい環境が課題になっています。そして、高齢者施設への形ばかりの訪問診療に対して厚労省は大幅な保険点数削減を実施しました。

相手の視線をつかみに行くように正面から見つめ見下ろさないようにする。相手を掴むのではなく本人の動こうとする意志を下から支えるように支える（掴むときは腕相撲の様に手と手を握り合う）。相手が心地よく感じる言葉を使い、実況中継をするように会話を続けながらケアをすること。そして40秒を目標に支えて立たせるリハを取り入れること。この4つを基本とするユマニチュードは「良いケア」であり、医療介護提供者にとっても「喜びと楽しさ」を見つけられるケアです。

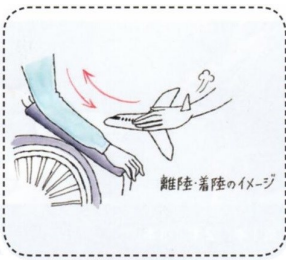
例えば認知症でも、「患者さんは人間で、そこに存在している事を尊重する」のがユマニチュードの哲学であるとユマニチュードの創始者であるイブ・ジネスト氏は言います。

医者はこのような教育を学校でも、病院でも全く受けてきませんでした。でも現場では本当に大切な事なので理解するだけでなく是非実践したいです。



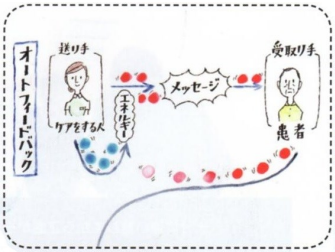
「見る」

ただ見るのではなく、相手の視線をつかみにいきます。



「触れる」

飛行機の離陸・着陸のように触れましょう。



「話す」

話題がないときでも、会話が続く方法があります。



「立つ」

40 秒立てれば、寝たきりは防げます。

パネルディスカッション
自宅以外で安心して暮らし、
医療介護も受けられる地域とは

高齢者の生活を支える視点で、ケアを提供する立場から市原氏にユニークな取り組みについて講演をして頂きましたので、質疑応答を兼ねて地域の各職種の方にご発言をお願いしました。

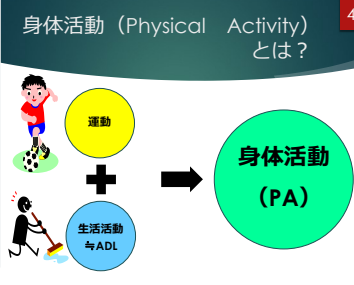
また最近注目されている介護技法「ユマニチュード」について今年2/5のクローズアップ現代で放映された映像を皆さんと共に見

て、私達、医療介護者実践者の個々の技量を高めるために今必要な事は何かを考えてみたいと思います。

パネリストは、市原氏のほかに緩和ケア医の篠原浩一先生、ケアマネ・薬剤師の須鴨義夫先生、訪問看護師の神津陽子さん、介護事業者として三上かつ子さん、異業種から介護士になった青木伸一さんです。



一般演題：高齢COPD患者の日常活動性と治療状況
演者：鈴木亜美（草加内科呼吸ケアクリニック 理学療法士）



高齢者は一般に身体活動が低下しますが、COPDは労作時の息切れが特徴なので、更に身体活動性を低めてしまう要因となります。私達は訪問リハを行って身体活動性を高めるお手伝いをしていますので現状をご報告します。そして身体活動を支えるには、個々の症例に合わせた介入が必要なことは論を待ちませんが、立って歩く事が基本です。そのため週に1-2回のリハだけでは不十分ですので、多職種の連携とご家族の協力が欠かせないと痛感しています。